

番組審議会

第 7 0 6 回

2 0 2 6 年 7 月 1 3 日

■ 審議会の構成

出席委員数 8 名

委員長 音 好 宏

副委員長 江 澤 佐知子

委員 川喜田 尚 田 中 東 子

谷 本 歩 実 長 嶋 有

二 関 辰 郎 目加田 説 子

T B S テレビ 龍 宝 社 長

竹 内 常 務

井 上 取締役

畑 場 報道局長補佐

山 田 メディアテクノロジー局ステーション統括部長

福 間 「ひるおび」チーフプロデューサー

渡 邊 コンテンツ戦略局長

小 川 編成考査局長

浜 崎 カスタマーサクセス室長

加 来 番組審議会事務局長

■ 議事概要

1. 審議事項

(1) 「T B S 放送センター」視察

(2) その他

2. 事務局報告事項

(1) 次回審議会の議題及び日程

【審議事項について】（「TBS放送センター」視察）

近年、多発する大規模災害に備えた報道体制、タイムリーな番組展開を目指す生放送・情報番組、様々なエンタテインメントを創り出すバラエティ番組・収録スタジオ、安心・安全な放送を管理するマスター室・回線ルームなど、番組審議委員会では、2013年以来となるTBSテレビの番組が制作、送出されている現場の視察を行った。

また、「TBSテレビ制作の番組」、「TBSテレビの取り組み」についても意見を寄せた。

【委員の主な意見】

＜TBS放送センター視察について＞

- ☐ 「ひるおび」の制作現場では、ペーパーレス化によるタブレット台本がスタッフ間での修正の共有により機動的であることなども印象に残った。
- ☐ テレビはアドリブ的に見えてもかなり予め決まっていることが多いという先入観があったが、盛り上がりに応じて構成を臨機応変に変えていく裁量の大きさは想定外だった。
- ☐ 「ひるおび」の生放送現場において、敢えて厳密な台本に縛られず、MC・恵俊彰氏による高度な即興性と臨機応変なタイムマネジメントによって番組が成立していることに大変驚かされた。これは単なる個人の技術に留まらず、出演者と制作陣の間に長年培われた深い暗黙知と信頼関係があつてこそ、成立する「生のメディアパフォーマンス」の極致と言える。
- ☐ マスター室で人間の視覚・聴覚、あらゆる五感で画面をチェックする姿にAIが多用される世の中で、ここぞという最後の仕事は「人間がするのだ」という頼もしさを感じた。
- ☐ 放送局の心臓部であるマスター室では、担当者の過度な肉体的・精神的負担

が長時間続かないようルーティーンの仕組みを検討・改善続けるなど、労務管理体制への目配り、継続的な見直しが行われていることには感心した。

- ミスが許されない判断において、「一人で責任を負う」プレッシャーがミスに繋がることから、シミュレーションを重ね、一人に任せるのではなくチームで対策を取るなどマスター部門の人材育成に対する配慮が印象的だった。
- 通常使用の機材・設備だけでなく予備、更にそのバックアップなど二重、三重のリダンダンシーは、一般の人には知る由もない壮大な、絶対必要な“無駄”。意味のある壮大な無駄を紹介する企画を折に触れて発信してほしい。
- 災害報道など緊急時に備えた準備は、「正確な情報を伝える」だけでなく、「安心を届ける」という姿勢が組織全体に浸透しており、細部への配慮と日々の積み重ねこそが視聴者から信頼される放送局を支えていると感じた。
- 震災など非常時の報道体制がどうなっているのか、質疑応答の時間も十分で良い時間を得られた。
- 報道局では、皆でSNS上に飛び交うフェイクニュースや情報に目を配らせなければならない時代の苦労を垣間見た。
- 「モニタリング」のスタジオは観覧者用の椅子が並べられており、出演者は生のリアクションを大事にするという趣旨の説明にL I V E感を大切にした演出は生放送だけではないことを実感した。
- 放送局には長年の番組制作で蓄積されたノウハウや取材網、各種ネットワークという一朝一夕では築けない基盤がある。この基盤を更に活かしていくことが望まれる。

＜ＴＢＳテレビ制作の番組について＞

- 精一杯の仕事を尽くし、制作力が高い点は評価されるべきではあるが、独創性のある企画が時に倫理面で問題視されることも事実。この点は今後も厳しい要求があるので、社内規則の安定化や周知で改善していくと良いと思う。
- 最近のドラマでは、親がいない、シェルター暮らし、みたいなものが妙に多い。時代的に「施設」が重要、無視できないから選ばれがちかもしれないが、ちょっと安直に「劇的」だから選ばれている、気がする。
- 「報道特集」は、社会的な問題点を多角的な観点から掘り下げて報じており、素晴らしいと感じた。また、「サンデーモーニング」は、複数のコメンテーターがそれぞれの確なコメントをしており学びが多い。

＜ＴＢＳテレビの取り組みについて＞

- 「地球を笑顔にするWEEK」のように、エンタテインメントの手法を用いて社会課題やSDGsへアプローチする取り組みは、単なる報道に留まらず、社会を牽引するパブリックメディアとして大変価値ある挑戦だと捉えている。
- 人権やプライバシーに着目すること自体は素晴らしい試みであるが、人権と言っても憲法上の一元的な概念ではないので、その点を見る者にわかり易く伝え続けてほしい。
- スポーツは放映権料の高騰で地上波放送が減少傾向にある。コンテンツとして人気が高いことは明らかであり、視聴格差やデジタル格差が指摘される中、テレビ局も積極的に参加してユニバーサルアクセスに関する議論を早急に進めて欲しい。

ＴＢＳテレビでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。（番組審議会事務局）